

# 全国草原再生ネットワーク

草原がつなぐ人・自然・文化

ニュースレター  
v o l . 20

(Oct., 2014)

<発行> 全国草原再生ネットワーク  
<http://sogen-net.jp/>



ヒゴタイと、根子岳、高岳を望む（熊本県阿蘇市波野にて）

■「第10回全国草原サミット・シンポジウム」が開催されます

第10回 **全国草原  
サミット・シンポジウム  
in 阿蘇**



11月22日～24日にかけて、熊本県阿蘇市で開催される「第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇」が近づいてきました。

基調講演、各地からの報告、分科会の演者などが決まり、サミット・シンポジウムの全体像が明らかになってきました。

詳細は申し込み案内などにも書かれていますが、今回のプログラムの概要などを紹介します。

<テーマ>

**守りつなごう草原の恵み！おとなも子どもも！**

草原の恵みについて、大人だけでなく、子どもたちにも、広く理解を深めていける機会になることを狙っています。

また今回は、阿蘇くじゅう国立公園指定80周年、阿蘇世界農業遺産1周年も記念した会となっています。

<目的>

今回の「第10回全国草原サミット・シンポジウム」では、草原の持つ公益的な役割や価値について広く国民にアピールするとともに、全国各地で取り組まれている草原保全活動の現状と課題について議論を深めながら、草原保全に取り組む全国の自治体や草原保全の担い手、NPO法人等との共通認識を醸成し、今後の活動に向けて連携と交流を図ることを目的としています。

**11月22日（土） オプションツアー 現地見学会**

輪地切り（防火帯づくり）の現地視察のほか、草千里ヶ浜や草泊まりなどの見学が予定されています。

輪地切りの現地視察では、ボランティアの方々が実際に作業を行っている様子を見ることができ、またとなりチャンスです！

また、最近では阿蘇でも目にすることが少なくなった草泊まりを、今回のツアー用に作って下さる予定です。草原の伝統を間近で見られる貴重な機会です。



11月23日(日) 第10回全国草原シンポジウム

□基調講演

講師：西脇重也氏（宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター長）  
 テーマ「草原が持つ公益的機能と経済的価値について」

□事例報告

- ①「草原プロジェクト 阿蘇の草原文化を未来へ」  
 発表者：熊本県立阿蘇中央高等学校
- ②「世界農業遺産としての茶草場草地における茶生産と生物多様性」  
 発表者：楠本 良延（独立行政法人 農業環境技術研究所主任研究員）
- ③「秋吉台の草原を次世代へー観光と保全の両立を目指してー」  
 発表者：松井 茂生氏（秋吉台草原ふれあいプロジェクト代表）

□分科会

- 分科会①「草原の公益的機能と経済的価値について」  
 ー本当に知っていますか？草原の恵みー（仮題）  
 発信者：環境省九州地方環境事務所
  - ・草原景観の価値と経済価値
  - ・草原の水源涵養機能
  - ・野焼きによるCO<sub>2</sub>固定機能について
- 分科会②「草原を地域の宝として輝かせる」（仮題）  
 発信者：阿蘇農業協同組合および全国草原再生ネ

- ットワーク
  - ・茅葺材としての活用
  - ・民宿利用者の観光スポットに
  - ・野草堆肥や茶草場としての活用
- 分科会③「幅広い市民運動としての草原保全活動と地元との連携」（仮題）  
 発信者：（公財）阿蘇グリーンストック及び阿蘇草原再生千年委員会
  - ・官民連携による草原保全と募金活動
  - ・市民ボランティアによる草原保全活動
- 分科会④「火入れの安全性確保について」（仮題）  
 発信者：全国草原ネットワークおよび（公財）阿蘇グリーンストック
  - ・事前の準備と研修
  - ・安全対策マニュアルと指導体制
  - ・火入れ条例や賠償保険等
- 分科会⑤「第2回全国子ども草原サミット」ふるさとの草原は宝の山！ぼくたち草原まもるモン（草原守人）  
 発信者・団体：阿蘇管内から2小学校、広島県、山口県内の小学校など
  - ・草原環境学習の発表
  - ・第2回全国子ども草原サミット宣言の採択

□全体討論会

- ・分科会からの報告とパネルディスカッション
- ・「第10回全国草原シンポジウム宣言」の採択

11月24日(月) 第10回全国草原サミット

草原を有する全国の市町村の首長によるサミットです。各地の草原や市町村の特徴、行政の取り組み

などが紹介されるとともに、今後の取り組み等についてサミット宣言が行われる予定です。

●お問い合わせ先

第10回全国草原サミット・シンポジウム実行委員会 事務局

<サミット関係>

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2402  
 阿蘇市町村会（熊本県阿蘇総合庁舎）  
 TEL 0967-22-3805 FAX 0967-22-0046  
 E-mail chouson2@aso.ne.jp

<シンポジウム・その他>

〒869-2237 熊本県阿蘇市石 1537-1  
 （公財）阿蘇グリーンストック内（山内・清野）  
 TEL 0967-35-1110 FAX 09\*67-35-1151  
 E-mail green-b@aso.ne.jp

## ■各地からの報告

### 大阪府吹田市の「小っちゃい草原」を見学しました

(横川昌史：京都府在住)

2014年7月24日に、大阪府吹田市にある「小っちゃい草原」を見学しました。大阪府吹田市は、大阪の北部に位置し、人口約36万人、千里丘陵を開発して建てられた千里ニュータウンを有する大規模なベッドタウンです。千里ニュータウンは、1960年代から開発が行われてきた、日本最初の大規模ニュータウンです。一見、開発されつくしたような千里ニュータウンの中に、チガヤが優占し、ワレモコウやツリガネニンジン、スズサイコなどが生育している「小っちゃい草原」があります。個々の草原の面積は1ha以下とたいへん小さいです。「小っちゃい草原」の植物相は、関西のため池や田んぼ周辺の里草地の植物相によく似ています。

「小っちゃい草原」は未利用の公有地で、大阪府や吹田市によって年二回の草刈りが行われています。ニュータウンとして開発される前は、田畑が広がる里地でした。ニュータウン開発後も毎年、草刈りが行われてきたために、草原が維持され、昔から生育していた草原の植物が生き延びてきたのだと思います。草が刈られていればどこでもいいというわけではなく、千里ニュータウンの中には、草が刈られているのにセイタカアワダチソウが優占する場所やシロツメクサが優占する場所もあります。なぜ、特定の場所にだけ里草地らしい植物が生き延びてきたのか、これから研究していく必要があります



初夏の「小っちゃい草原」  
奥に見える白っぽいものはチガヤの穂

が、大規模に開発された場所に草原が残っていることはとても興味深いです。

このような「小っちゃい草原」で観察会や植物の調査をされているNPO法人すいた市民環境会議の方々に案内していただき、草原を見学させていただきました。残念ながら、夏の草刈りの直後に見学をしたために、花はほとんど見られませんでした。みんなでワレモコウやスズサイコの葉を見つけては驚きながらの見学になりました。見学後は、室内で意見交換会も行われました。「小っちゃい草原」には、大阪府では絶滅したと考えられていたアイナエや、



現地見学の様子



見学で見つけたワレモコウの葉っぱ

大阪府で 70 年ぶりに発見されたヤマサギソウも見つかっています。加えて、ワレモコウやツリガネニンジンなど草原に生育する普通の植物もきちんと残っています。これらの植物と草原を、ニュータウンという都会の中でどのように保全していけるかなど、活発な議論が行われました。千里ニュータウンの例は、各地にある丘陵地を開発したニュータウンに、草原の植物が残っている可能性を示しています。そのような場所にお住まいの方は、是非、近所の植物にも目を向けてみてください。意外な場所で「小っちゃい草原」が見つかるかもしれません。

最後に、現地の案内や意見交換会の準備をしてくださった、NPO 法人すいた市民環境会議の方々にお



見学に参加した人たちの集合写真(平軍二氏撮影)

礼申し上げます。ありがとうございました。

## ■草原の生き物紹介

草原に暮らす動物や植物について、不定期で紹介していきます。第 1 回は、草原でもっとも代表的な

生き物であるススキを紹介します。

### ①ススキ (薄、芒/別名:尾花、茅) *Miscanthus sinensis* Anderss.

【分布】日本全土、東アジア

【生態】山野に普通に見られる多年生の草本で、高さは 1~2m になります。葉は細長く、長さ 50~80cm、幅 1~2cm で、ふちは著しくざらつき。秋には、茎の先に、長さ 20cm 前後の複数の花序からなる穂をつけます。タネには白い毛が付いていて、風によって運ばれます。地下には分枝した短い地下茎があります。この地下茎から葉を出すため、株立ちしているように見えます。

【名の由来】ススキの由来には諸説あり、定説は無いようです。すくすく立つ木、などの説があります。尾花は、穂の様子が馬の尾に似ているから、茅(カヤ)は、刈って屋根を葺いた「刈屋根」が

なまったと言われています。

【利用】かつては茅と呼ばれ、茅葺屋根の材料、家畜のエサや敷き草などとして重宝されてきました。現在でも量は少ないですが、茅葺き屋根の材料や家畜のエサとして利用されるほか、バイオマエネルギーの燃料などとしても活用が進められています。

【その他】秋の七草のひとつで、山上憶良が万葉集で「萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また 藤袴 朝顔の花」と詠んでいます。万葉集では、「すすき」が 18 首で、「尾花」が 18 首で、「かや」が 10 首で登場するように、古くから私たちの身近な植物のひとつでした。



株立ちする様子



花序の様子

## ■草原をめぐる動き（2014年10月～2015年1月）

- 10/11 秋吉台お花畑プロジェクト 2（場所：秋吉台 青少年自然の家（山口県美祢市）、連絡先：秋吉台エコ・ミュージアム）
- 10/11-13 茅葺き体験会 カヤカル 2014@美山砂木（場所：京都府南丹市美山町高野地区 砂木集落の地蔵堂、連絡先：茅葺屋）
- 10/18-19 七時雨トレイルランツアー（場所：七時雨高原（岩手県八幡平市）、連絡先：七時雨マウンテントレイルフェス実行委員会）
- 10-18-19 かやかり やねふき みんなよう たいけん（場所：富山県南砺市合掌の里、連絡先：合掌の森再生協議会事務局）
- 10/25-26 茅刈り講習・検定・秋の上ノ原散策（場所：群馬県利根郡みなかみ町上の原、連絡先：森林塾青水）
- 10/26 ススキまつり（場所：兵庫県神河町 砥峰高原、連絡先：神河町観光協会）
- 11/15-16 初冬の枯れ野にたたずむ茅ボッチ運び出し（場所：群馬県みなかみ町上ノ原、連絡先：森林塾青水）
- 11/15-16 会津大内宿で茅刈りと茅葺き体験ワークショップ（場所：福島県南会津郡下郷町大内宿、連絡先：日本茅葺き文化協会）
- 11/22-23 伊吹山茅刈り体験（場所：滋賀県米原市伊吹山三合目、連絡先：湖北古民家再生ネットワーク）
- 11/22-23 富士山茅葺きフォーラム（場所：静岡県富士宮市 井之頭中学校体育館、連絡先：富士教育訓練センター）
- 11/22-24 第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇（場所：熊本県阿蘇市阿蘇プラザホテル、連絡先：公益財団法人阿蘇グリーンストック）
- 11/23 乙女高原草刈りボランティア（場所：乙女高原（山梨県山梨市牧丘町）、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 11/29 茅刈り体験イベント（場所：広島県東広島市志和堀地域センター、連絡先：西中国茅葺き民家保存研究会）
- 12/13-14 朝霧高原茅刈り応援隊（場所：静岡県富士宮市朝霧高原、連絡先：あさぎり古里創生ネット）
- 12/13-15 筑波山麓茅刈り隊 2014（場所：茨城県つくば市大穂 高エネルギー加速器研究機構敷地内、連絡先：やさと茅葺き屋根保存会）
- 1/4 茅刈り体験会 ヨシ刈り編 カヤカル@淀川（場所：大阪市淀川区淀川十三干潟ヨシ原、連絡先：茅葺屋）
- 1/12～2/1 ようこそ乙女高原へ展X（場所：山梨市民会館ロビー（山梨県山梨市）、連絡先乙女高原ファンクラブ）
- 1/24 ヨシ刈り体験 りあすの森（場所：宮城県石巻市北上町北上川河口吉原、連絡先：りあすの森）
- 1/24 親子茅刈り体験会（場所：兵庫県三木市三木山森林公園、連絡先：三木山森林公園管理事務所）
- 1/24 第3回東京楽習会「小貝川の野焼き」（場所：茨城県常総市小貝川河川敷、連絡先：森林塾青水）
- 1/24 若草山山焼き（場所：奈良県奈良市奈良公園、連絡先：奈良市観光センター）
- 1/25 菅生沼の野焼き（場所：茨城県坂東市菅生沼、連絡先：茨城県自然博物館）
- 1/31 本州最南端の火祭り（場所：和歌山県東牟婁郡串本町潮岬望楼の芝、連絡先：串本町観光協会）

※上記以外の情報もホームページで随時公開しています。

### 全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol.20 2014年10月号

全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-84-0262

【編集後記】事務局でも11月に阿蘇で開催される「全国草原サミット・シンポジウム」に向けて、さまざまな準備があったため、10月発行のニュースレターがみなさまのお手元に届くのが、大変遅くなってしまいました。お詫び申し上げます。このニュースレターが届く頃には、サミット・シンポジウムが成功裏に終わり、草原保全へ向けての新しい一歩が踏み出されていることと思います。